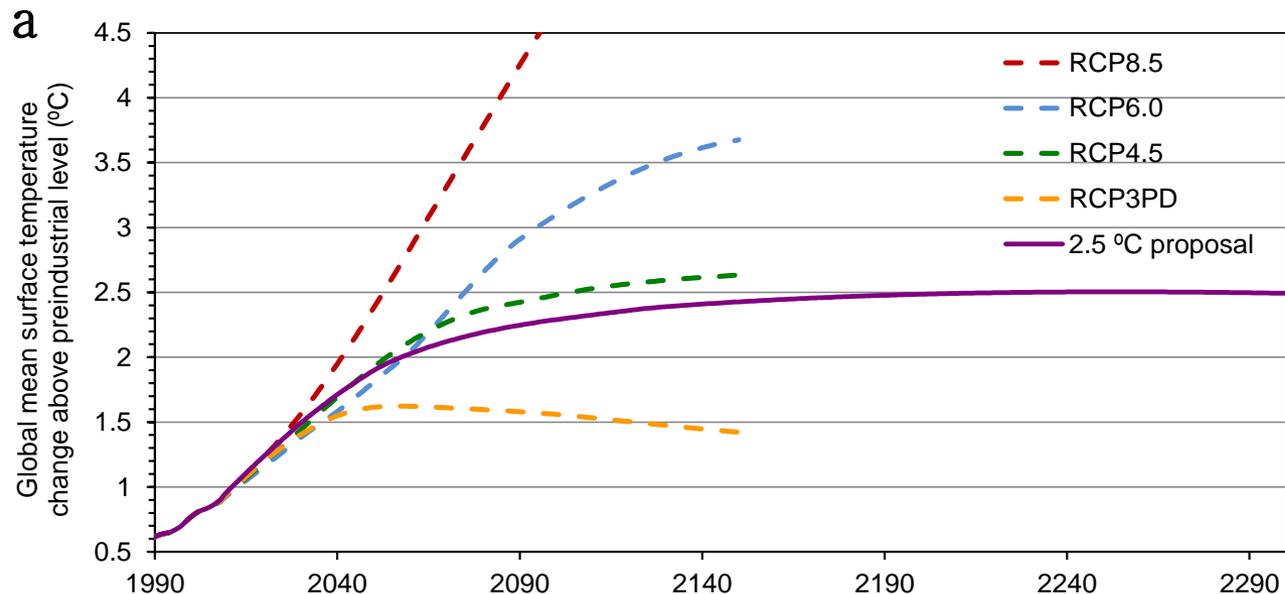


2.5°C目標提案とRCP排出パスの比較



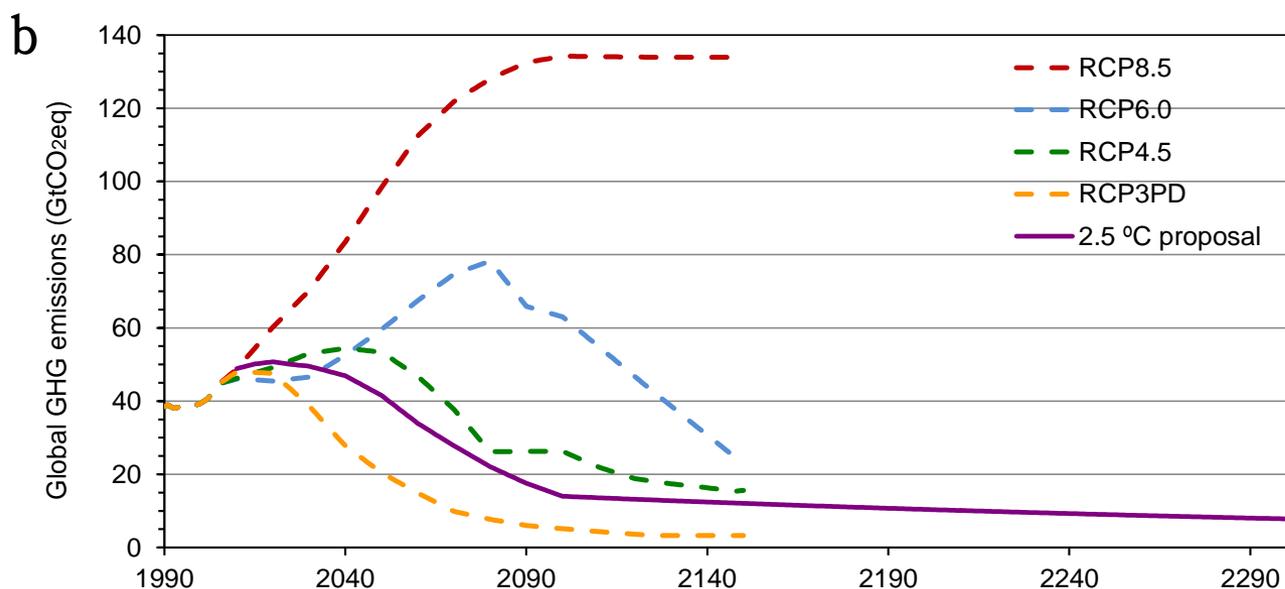
茅陽一、日経新聞「経済教室」、
2013年10月16日

エネ研のアウトルックの
「技術進展ケース」は、茅
(RITE)による2.5°C提案と
比較的近いもの

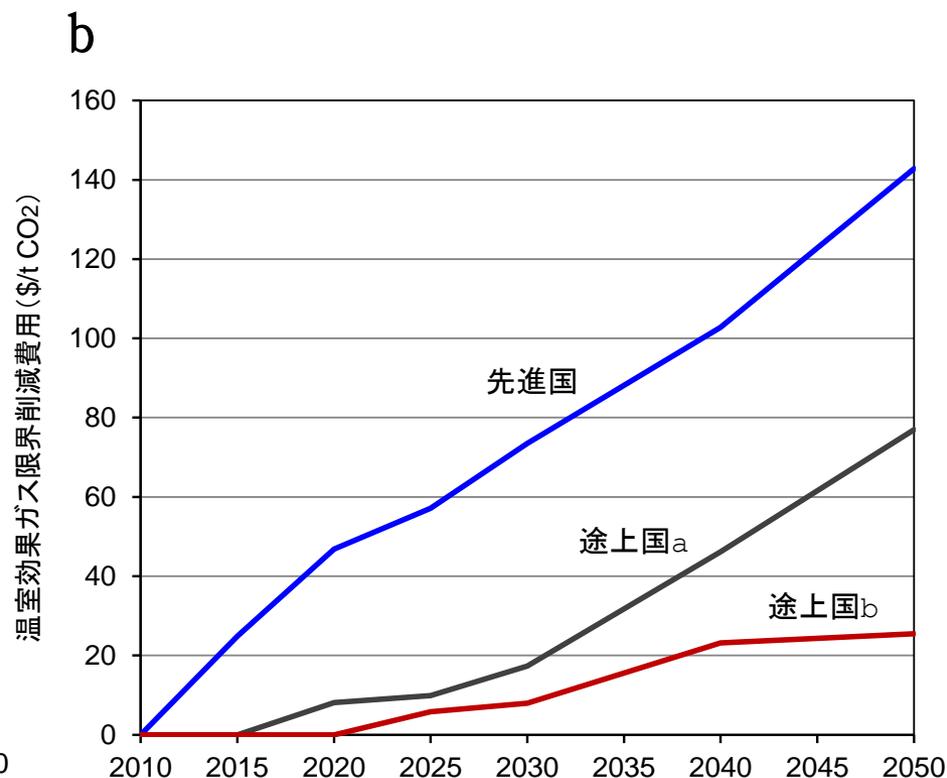
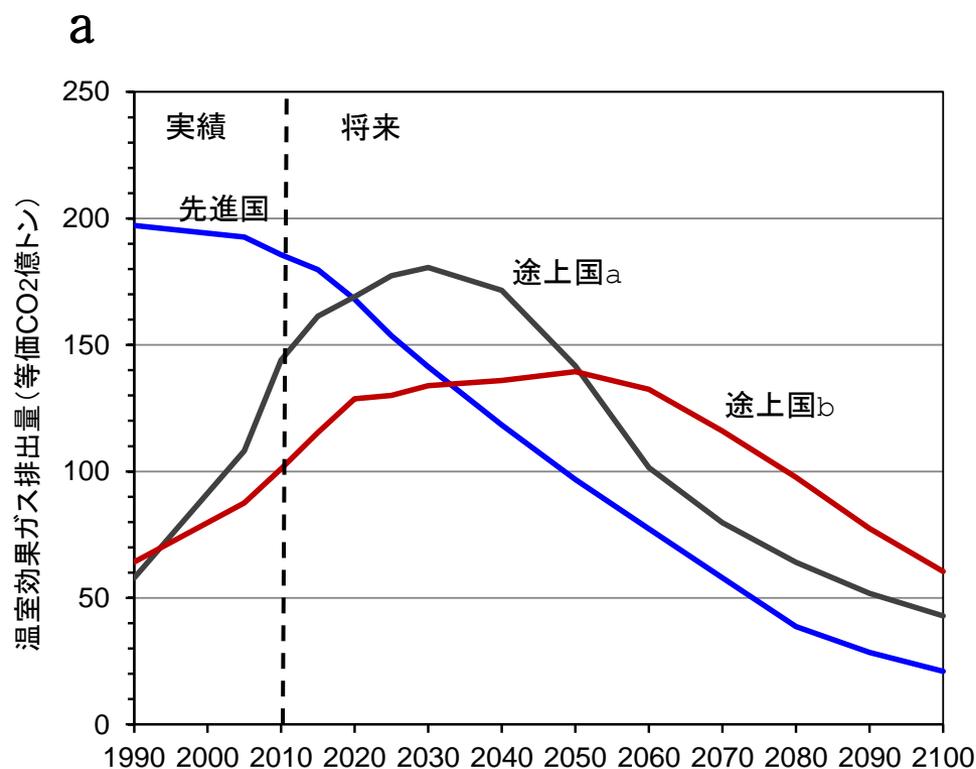
平衡気候感度は3°Cで計算した場合。ただし、IPCC第4次評価報告書では最良推定値を3°Cとしていたが、第5次評価報告書では最良推定値は合意できなかったとしている。

”likely”な範囲としては、2~4.5°Cから、1.5~4.5°Cに若干下方に修正されている。

気候感度が最良推定値のときは2.5°Cだが、2°C以内に収まる可能性も相応にある。また、21世紀後半以降の一層の技術革新が成功すれば、2°C以内も一層視野に入る。



2.5°C目標におけるGHG排出経路と削減費用



茅陽一、日経新聞「経済教室」、2013年10月16日

途上国a: ブラジル、インド、中国 途上国b: その他、途上国

2050年に世界排出量半減の場合、最小費用で達成の場合(限界削減費用均等)でも限界削減費用は480\$/tCO₂程度と推計される。実現は相当困難と見られる。

2.5°Cと2°C目標よりは高くなるものの、先進国、途上国a、途上国bで限界削減費用に差異を設けても、先進国の限界削減費用は2050年で140\$/tCO₂程度と比較的現実的なもの